

西四国

所報 188 号

2024 年 9 月 30 日

編集者 清水真一

予土国境の大草履吊り(2)

鬼北町興野々芳組の大草履吊り

十亀 幸雄

はじめに

第1報(『西四国』所報 186 号)で述べたように、大草履吊りは小正月の1月16日に大草履を吊した注連縄を、集落の入り口にあたる道や川に渡して張る村祈禱である。この行事は、愛媛県の中予・南予にみられ、東予ではほとんど見られないといった地域的な分布の偏りがある。県外における鬼の金剛類似の行事については、隣県の高知県でも幡多郡・高岡郡を中心に西部に多数がみられ、草履吊りの名称でしばしば虫送りや習合している。集落に侵入しようとする悪しき靈魂や疫病を追い払うための、対抗呪術である。

第2報では、前報の上川と同じ鬼北町の興野々芳組(おきののよしぐみ)の大草履吊りの村祈禱について報告する。第1報の際には訪れることが出来ず、2024年6月30日に芳組を訪ねた。

1 鬼北町興野々芳組の草履吊り

興野々芳組は、上川よりさらに四万十川支流の広見川に沿って国道320号線を下った右岸段丘面上にある集落である。かつては20戸あまりの集落であったが現在は3戸ほどと激減している、草履吊りは作る人がいなくなって5、6年前から中断しており、さらに担う人が少なくなって再開するのは困難となっている。

地元芳組の高田さん(男性)に、5・6年前までおこなっていた大草履吊りの様子を伺ってみた。大草履つりは、7月21日の大師まつりの際におこなっていた。この祭りは現在もおこなっているが、草履吊りは中断している。



第1図 鬼北町の大草履 1(1)興野々芳組北部境 1(2)同南部境 2上川本村 (1/50000)